病気や検査の疑問が分かる!! 健康のためのニュースレター

川島病院 循環器内科

ハートニュース vol.3

2013年 11月 発行

はじめに

本年7月から隔月に発行しております
「川島病院ハートニュース」も、今年の最終号になりました。
厳しかった夏が終わった途端に寒くなってきました。
気温が下がると、血圧の管理も難しくなります。
狭心症の発作も起こりやすく、
風邪や呼吸器感染症をきっかけに心不全を発症することがあります。
減塩など食事に気をつけ、過労を避け、規則正しい生活を心がけてください。

薬の話　水以外の飲料で飲む場合

出典：日本病院薬剤師会誌

前回は【薬の正しい飲み方】と【水の量と薬の効き方】について説明しました。
今回は、水以外の飲料と薬の飲み合わせについてです。

清涼飲料水や牛乳の場合

コーラやジュース、牛乳などで薬を飲むと、一般的には吸収が遅くなったり、悪くなったりして、効果も薄まる傾向があります。緊急の場合以外では、水以外のもので薬は飲まない方が良いです。

薬を水とコーラで飲んだ場合の効果の違い

薬をコーラで飲むと、水に比べて、血液中の薬の濃度の上がり方が遅くなります。

グレープフルーツジュースの場合

グレープフルーツジュースで血圧降下薬（一部のカルシウム拮抗薬）などを飲むと、薬の分解が抑えられて作用が強くでることがあります。グレープフルーツの実を食べても、同様の作用が出ます。これは、グレープフルーツに含まれている「フラノクマリン」という物質が薬を分解する酵素の働きを阻害し、薬の分解を遅くして効き目が強くなってしまうためです。

アルコールの場合

薬とアルコールを一緒に飲むと、肝臓はアルコールを優先的に分解します。そのため薬の分解が遅れ、通常より高い濃度で血液中に入り、強い作用を及ぼします。また、精神安定剤や睡眠剤などは、アルコールと一緒に飲むと作用が強まります。糖尿病の薬には、低血糖を起こすこともあります。薬は、アルコールと一緒に飲まないでください。

社会医療法人川島会 川島病院　徳島市北佐古一番町1-39 ☎088-631-0110

病気や検査の疑問が分かる!! 健康のためのニュースレター

川島病院 循環器内科

ハートニュース vol.3

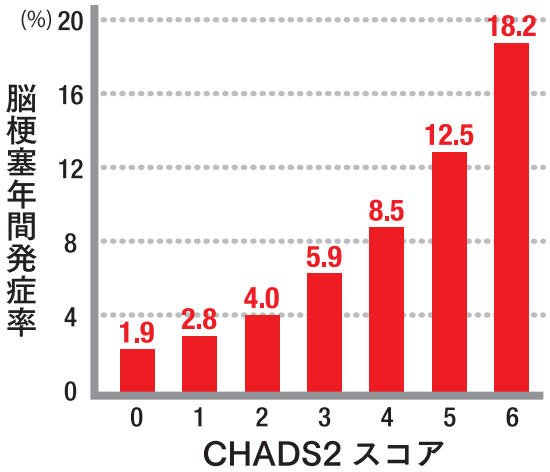
2013年 11月 発行

病気の話 心房細動 その3【心房細動による脳梗塞】

心房細動では脳梗塞の予防が重要です。心房細動ではバラバラの心臓収縮により血液の流れがスムーズでなくなり、心臓の内に血液の塊（血栓）ができやすくなります。その血栓が脳の血管へと流れていって血管がつまると脳梗塞となります。高血圧などにともなう通常の脳梗塞とちがい、太い血管がつまるため大きな脳梗塞となり死亡率が高いのが特徴です。たとえ救命できても麻痺や言語障害などの重篤な後遺症が残ることも問題です。

心房細動では血栓のできやすさに個人差があります。心不全（心臓の収縮力が悪い人）、高血圧、75歳以上、糖尿病には各1点、過去に脳梗塞があれば2点として、これらの合計（CHADS2スコア）が多くなると脳梗塞の発症率が高くなり（表）、予防がより重要になります。

次回は予防方法の話です。



検査の話 心電図その3 運動負荷心電図【トレッドミル検査】

川島病院では負荷心電図検査としてトレッドミル検査を行っています。

トレッドミル検査はベルトコンベアの上を走る検査です。ベルトコンベアは　最初はゆっくりと動きますが、しだいに速く、傾斜も強くなり、最後には走るようになります。目標の脈拍数になれば終了で、この時の心電図変化で病気を判定します。ただし、それまでに足がついてゆけなくなったり、胸が苦しくて運動ができなくなれば検査を終了します。

誰でも走ると動悸や息切れを感じます。この時、血圧と脈が増えて心臓に負担が掛かっています。心臓が悪くなると、安静にしている時は心電図変化が無くても、運動で心臓に負担が増えると心電図に変化が出ることがあります。

狭心症では、運動により心臓の筋肉に血液が不足して胸が痛くなったり、心電図に変化が見られます。また不整脈の患者さんでは、運動によって不整脈がどの様に変わるかをチェックします。

次回はホルター心電図です。